

ふるさと福井の新しい扉を開く

平成
26年度

当初予算成立



福井県恐竜ブランド
「Juratic」キャラクター
ラプト君

2月定例県議会において、平成26年度当初予算が成立しました。

平成26年度は、舞鶴若狭自動車道が全線開通し、北陸自動車道を経て中部縦貫自動車道へとつながります。また、来春には北陸新幹線が金沢まで開業し、人とモノの流れが大きく変わります。

局面が大きく変わるこの時期は、県民の皆さんの暮らしの質を高め、多くの人を福井に呼び込むことで、ふるさと福井を将来にわたって発展させていく大きなチャンスです。このため、新しい扉を開く予算では5つの重点施策を柱としました。

5つの重点施策

- ① ふるさと福井が放つ「本物」戦略
- ② 活気を導く高速交通時代のまちづくり
- ③ 新たな挑戦を生む産業政策
- ④ 「幸福共感」、楽しむ福井の暮らし
- ⑤ 未来に希望の人づくり

予算の規模

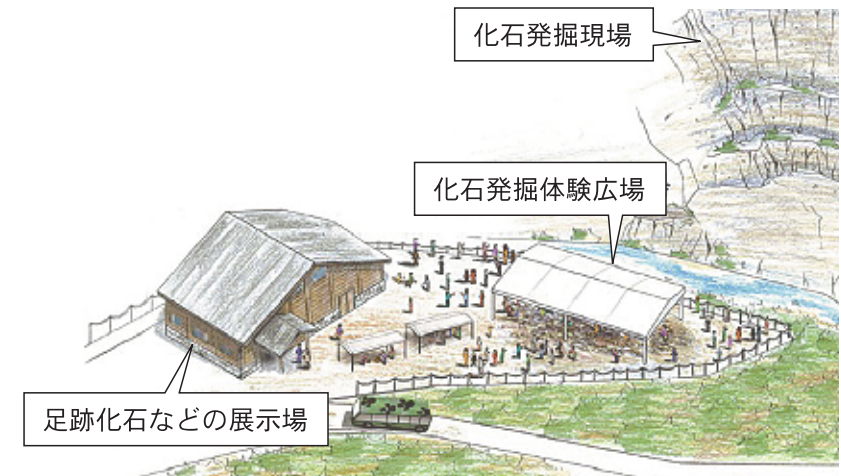
会計区分	26年度当初予算
一般会計	4,822億5,772万円
特別会計	121億3,849万円
企業会計	382億3,718万円
合計	5,326億3,339万円

① ふるさと福井が放つ「本物」戦略

野外恐竜博物館がこの夏オープン

恐竜好きの子どもから、恐竜マニアの大人まで、大人気の恐竜博物館。今年度の入館者は、博覧会を開いた初年度の70万人を上回る見込みで、国内屈指の観光地に成長しています。

今年7月19日には、「野外恐竜博物館」を新たにオープンする予定です。フクイラプトルなどが発掘された現場や実物足跡化石の見学、化石発掘体験など、臨場感たっぷりの「本物」の恐竜フィールドに、夏休みを利用してぜひお越しください。



7月19日にオープン予定の野外恐竜博物館(イメージ)

「和食」を活かしたブランド戦略の強化

福井県の優れた食文化を次の世代に伝えていくため、学校給食で和食を味わう機会を増やしていきます。食材には地元で採れた野菜を積極的に取り入れ、自分で育てた野菜を自ら食べる体験を進めます。

さらに、福井の伝統工芸の漆器や漆塗を学校給食に使う市町を応援したり、県内の全ての小学1年生に漆塗り箸を配るなど、学校や家庭で「和膳」に親しむ活動を進めます。

伝統の越前漆器を使った給食

北陸新幹線開業を活かした誘客の拡大

来年春季の北陸新幹線金沢開業に向け、福井県のダントツブランド「恐竜」を活かし、東京スカイツリーや上野駅において「恐竜が招く」本県独自の誘客活動を強め、首都圏などからの観光客を増やします。

金沢駅構内には、福井県の観光案内コーナーを設け、専門のコンシェルジュを配置して最新の情報を発信します。

陸と空の玄関口となる、福井駅西口駅前広場と小松空港には恐竜モニュメントを設置し、他県とは一味違う福井の顔づくりを進めます。また、日本で唯一、戦国時代の城下町跡がまるごと残る「一乗谷朝倉氏遺跡」では、中世の雰囲気味わえるよう、復原町並から上城戸跡までの区間の電柱をなくします。

遺跡をパノラマ的に楽しめるよう、復原町並や朝倉館が一望できる月見山に展望所を作ります。さらに、山城からの眺めも楽しめるよう、登山道も整備します。

舞鶴若狭自動車道の愛称「若狭さとうみハイウェイ」に決定

舞鶴道全線開通を機に、観光戦略と嶺南・嶺北の一体化を進めます。7月からは「海湖と歴史の若狭路」キャンペーンを展開。里山里海湖での自然体験、秘めめぐりなど、嶺南でしか味わえないイベントや嶺南で初めて開く恐竜展など、盛りだくさんに開催します。若狭歴史民俗資料館は、新たな歴史文化観光の拠点「若狭歴史博物館」としてリニューアルし、記念特別展を開催します。また、嶺北地域の子どもたちが遠足等を通じて嶺南地域を訪れる機会を増やし、身近に感じてもらえるよう努めます。さらに、嶺南地域を訪れた方に消費額の1割分の特産品をお渡しするキャンペーンを、今年も実施します。高速道路の開通でますます近くなる嶺南に、ぜひ出かけください。

「里山里海湖」や水月湖「年縞」の保全・活用

昨年10月に発足した「里山里海湖研究所」を中心に、「生物」、「生活」、「景観」の3つの多様性を育み、里山の恵みを生かす暮らしに結び付ける研究を行います。

親子で参加できる生きもの観察会などを実施したり、学校でメダカの数や、積雪の深さを毎年調査するなどして、環境を守る意識を広めていきます。年代測定の世界標準として認められた水月湖「年縞」については、新たに採取して加工・保存し、学校教育や学術観光などに活用するなど、福井の宝としてその価値をさらに高めていきます。



嶺南と嶺北をつなぐ「若狭さとうみハイウェイ」

② 活気を導く高速交通時代のまちづくり

北陸新幹線の早期開業

北陸新幹線の整備のため、平成26年度は今年度の2倍以上の約108億円の事業費を確保し、道路と鉄道の一体橋となる九頭竜川橋りょうや、新北陸トンネルの工事を進めます。

今後、用地買収や埋蔵文化財発掘調査など、県としてできる早期開業対策を加速し、早期完成・開業を目指します。



北陸新幹線に導入される新型車両

快適で利用しやすい鉄道の整備

えちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗り入れについては、平成27年春季の運行開始を予定しています。このため、田原町駅をはじめ各駅の改修工事等を進めています。

また、福井鉄道の福井市内の路面部分については、石畳を敷き直しレールと路盤を改良、国体の開催に備えて、快適な乗りごちと景観の改善を進めます。

まちなかの魅力アップ

県民や県外からの観光客の方がまち歩きをしたくなるような魅力アップを応援します。平成26年度は、福井市の中心部において、福井初の洋館であるグリフィス記念館(仮称)の復元等を行うほか、小浜西組周辺、今庄宿、永平寺門前の整備に着手します。

また、県内事業者の魅力ある個店づくりや、中心市街地のにぎわいと交流を生み出す取組みを応援し、県内外からの誘客を促します。



宿場町の雰囲気が残る今庄宿

県都デザイン戦略の実行

福井城址の山里口御門の復元については、詳細設計を行うとともに、石垣の解体調査に着手し、平成28年度の完成を目指します。また、中央公園の再整備については、平成27年度完成を目標に、歴史がしのばれ人々が集まる緑豊かな空間となるよう、福井市と協力して進めています。福井駅西口の駅前広場と再開発ビルの整備については、新たな県都の玄関口にふさわしい特色のある駅前整備を進めます。



復元に向けた調査が進む山里口御門(イメージ)

③ 新たな挑戦を生む産業政策

「売り方改革」と新成長産業の支援



現場のニーズを商品開発に活かす

の中小企業に身に付けてもらおうと、専門家を派遣したり、モデル事例集を作成するなど、企業の「売る力」を強化していきます。

また、病院で現場のニーズを学ぶ「医療現場見学会」を開くなど、県内企業の高度なモノづくり技術を活用した医療関連製品の開発を促し、医療産業への参入を応援します。

炭素繊維は、自動車や航空機などへの用途拡大が見込まれることから、開繊技術などを活かした製品の量産化や大型成型技術の開発を加速し、販路開拓を行います。

新たなアジアビジネス戦略

近年、成長が著しい東南アジアは、新たな生産拠点や将来有望な消費市場としての魅力が高まっています。

そこで、タイに「ふくいバンコクビジネスサポートセンター」を秋頃に開設。東南アジアでの工場の新設や販路開拓の支援、また、県内への観光誘客のため、旅行代理店への営業活動などを行います。

④ 「幸福共感」、楽しむ福井の暮らし

女性がさらに輝く社会に

働き者といわれる福井の女性を応援するため、キャリア、就職、子育てなどの相談を一つの窓口で解決できるよう、ふくい女性活躍支援センターの機能を強化します。

健康面をサポートするため、土日・祝日にがん検診を受診できる日を設け、新たに子宮がんや乳がん検診を行う事業所に費用を補助します。

また、働く女性が安心して出産・子育てができるよう、育児休業や、育児短時間勤務のとりやすい職場環境づくりをさらに進めます。



乳がん検診に使用するマンモグラフィー

結婚・子育てを応援

結婚を望む若者の出会いの機会を増やします。地域の縁結びさんを現在の38名から300名体制へと大幅に増やし、縁結びさんの情報交換会の開催や、交通費、電話代など活動費を支援します。

⑤ 未来に希望の人づくり

世界に通じる英語・サイエンス教育

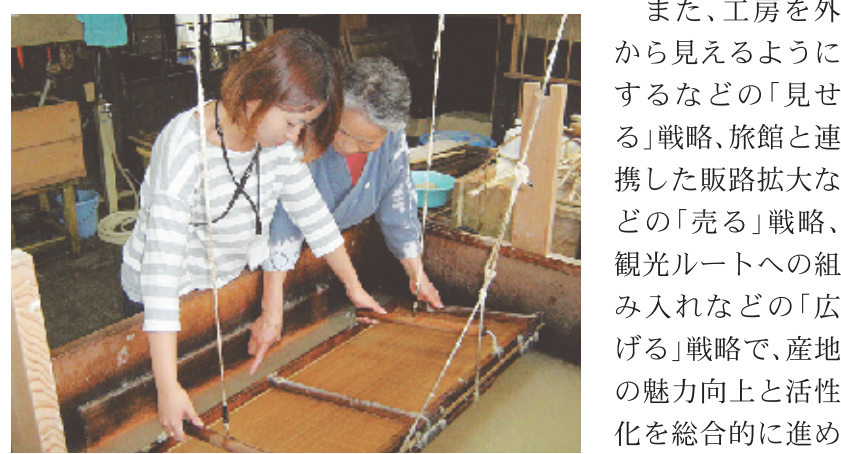
英語を「話す」「聞く」ことを重視した授業で、自分の考えをきちんと表現できる「使える英語力」を育成します。また、中学・高校生がALTとともに、一週間にわたり英語だけを使って生活する「FUKUI 英語ランド」を8月に行います。サイエンス教育では、高校生を対象に、日本を代表するものづくり企業の科学者などによる講演会や、一流のエンジニアによる年間を通じた特別講義などを行います。最先端のテクノロジーを学ぶ機会を設け、将来の本県や日本の産業を支える人材を育てます。



科学実験で新しいテクノロジーに触れる

ふるさと産業に新展開を

新たに伝統的工芸品に指定された越前筆筒をはじめ、漆器や和紙、打物、焼物の産地が集まる丹南地区で、職人の育成を進めます。職人を志す若者が、デザインや、商品の売り方を学んだり、産地の職人から直接指導を受ける伝統工芸職人塾を設けます。



若手の越前和紙職人を養成

獲って儲かる水産業

漁獲量が増えでも市場価格に左右されない加工品として出荷できるよう、県内全域の定置網や底曳き網で獲れる新鮮な魚を集め、切り身や干物などに加工する施設の整備を支援します。



水産物の加工で生産額を向上

生きがいくりと在宅ケアを推進

高齢者同士や若い世代との交流が広がるよう、老人クラブが地域住民とともに行うボランティア活動や、ウォーキングなどの健康づくり活動を支援します。

また、東京大学の協力を得ながら坂井地区でモデルづくりを進めてきた在宅ケア体制を全ての市町に広めるため、保健師などのコーディネーターを配置します。



住み慣れた自宅で医療・介護を受ける在宅ケア

原子力防災を充実強化

地震などで道路が寸断されても避難できるよう、半島部に臨時ヘリポートを整備します。原子力防災センターが使えなくなった場合のバックアップ施設として、原発から30kmの圏外にある生活学習館に非常用発電機などを整備します。また、伝達体制の整備、防災ラジオや発電機など資機材の購入、避難所のバリアフリー化など、市町の行う避難対策を支援します。

「商いコメづくり」で収益性を高める

国のコメ政策の見直しに向けて、農業を利益のある産業へステップアップさせます。100ヘクタール規模のメガファームを平成30年度までに、現在の2組織から20組織まで増やすことを目指します。

米の高品質化と食味アップのため、「秋の田起こし運動」に取り組み、水田ごとの土壌分析により、土壌に合った有機系肥料による土づくりを進めます。さらに、平成26年度は、全国におけるコシヒカリの作付面積が、多くの品種の中で日本一になってから30周年にあたります。これを記念して「コシヒカリを生んだ福井県」を全国に発信し、福井米の販路拡大を図ります。



収益性の高いメガファームでの稲刈り

嶺南地域の大規模園芸を応援

四季を通じて野菜などを出荷する、自然光を利用した大型ハウスの整備を支援し、産出額を伸ばします。

さらに、生産から加工、出荷まで一体的に行う次世代型の大型施設園芸に対する補助制度を設け、ハウスや加工施設、出荷センターを整備。新規雇用の創出や、大手スーパーなどへの販路を開拓します。



大型連棟ハウスでの大規模園芸

福井しあわせ元気国体・大会の準備を促進

いよいよ開催まで4年に迫った福井国体に向けて、競技会場の整備や、開・閉会式などの準備を進めます。メイン会場となる福井運動公園で、体育館、陸上競技場、水泳場の工事に着手します。また、専門指導者がいないカヌー、レスリング、セーリングの強化校に特別強化コーチを派遣したり、陸上やソフトボールなど10競技について、日本代表選手などの指導実績を持つ優秀なトレーナーを招き、競技力の向上を目指します。



新設する県営体育館(イメージ)



ヘリを使った住民避難の訓練

教育文化施設を充実

「福井ふるさと文学館(仮称)」を県立図書館内に新設。平成27年2月のオープンに向けて、展示工事や、福井ゆかりの文学者の資料収集を進めます。また、小・中学生の野外体験や長期集団宿泊などの体験活動を充実させるため、芦原青年の家の平成28年10月の移転オープンに向けて、建設工事に着手します。

福井ゆかりの作家・作品に親しむ「福井ふるさと文学館(仮称)」(イメージ)

皆様のご意見をお寄せください

今回紹介した事業も含め、県の事業へのご意見やアイデアをお寄せください。ご意見は常時受け付けています。 問 県政策推進課 ☎0776(20)20258

当初予算の詳しい内容は、県のホームページに掲載されています。 福井県 平成26年度当初予算 検査 問 県財務企画課 ☎0776(20)0233